

(4) 舞台芸術コース

| 教科科目         | 科目の特長  | 科目の目標  |
|--------------|--|--|
| 情報処理演習Ⅰ      | コンピューターおよび情報機器・媒体についての知識を学び、その操作・活用ができるようになると共に文部科学省後援の「文書デザイン検定試験」などの上級検定試験に対応した授業を進める。   | コンピューター活用能力を各種の情報処理検定試験合格をめざすことによって向上させる。  |
| 声優基礎         | 声優としての基礎となる人との出会いについて学び、クリエイティブな仕事に携わる際に必要な、自分を磨く行動力をどのように身に付けるか体験談を交えながら学ぶ。   | 声優としての心構えから基礎を習得する。  |
| ダンス表現演習Ⅰ     | 作品作りに必要な振り付け・構成を学びます。普段のレッスンの振り付けとは違い、作品全体の流れによって振り付けが変わることや構成を入れるタイミングなどを学ぶ。  | 一つの作品を通して、ショーの作り方を学び、コレオグラフィカや構成・演出的な部分を身につけると同時に、個人ではなく、一つのチームとしてのショーの捉え方を習得する。 |
| ヒップ・ホップ・ダンスⅠ | ダンスに必要な基礎力、筋力、表現力を身につける。   | 舞台上で自己表現できるようにする。  |
| ジャズダンスⅠ      | 毎回のレッスンでアップ、筋トレ、アイソレーションを行うことによってカラダをつくる。また、踊りに安定感を出すため、プリエやターンなどのバレエの基礎を使って軸づくりもしていく。毎回のレッスンの後半では振り付けも行い、踊る楽しさ、流れの中で踊る気持ち良さも実感してもらう。それをミニテストとして発表する場も設ける。 | カラダづくり、軸づくりに重点を置き、外側で踊るのではなく、内側から踊るという意識をはぐくむ。                                   |
| 音響研究         | 音響の基本、必要性、意義を学ぶ。   | 音の基礎を学び、自然の音と電気を使って増幅された音との違いを理解し、音響の役割が様々なシーンにおいての必要性を認識できるようにする。               |
| ボイカル研究Ⅰ      | 普段意識しないで出している声を、歌うためのツールとして声を理解することがまず必要。その為に、声はどこから出してどこでコントロールすればいいのかを学習する。  | 歌うための声を出すことが特別なことではなく日常の習慣となること。   |
| 演技実習Ⅰ        | 発声・滑舌・間・リズム感・身体表現などを演劇ワークショップや演技を通じて学び、声・身体の鍛錬を一つ一つ積み重ねていく。  | 自らの肉体を通じて表現する(演じる)ために必要な感性・テクニックを習得する。   |